

## 明日のパン

白鷗中学校 二年 井上 瑞稀

私は、朝起きてご飯を食べます。あるいはパンかもしません。朝ご飯を食べながら、ニュースを見ます。「最近いろいろなところが戦争しているね」と母と話しますが、画面の向こうの話です。自分には関係ないと思いながら朝ご飯を食べて、学校に行きます。その頃にはさつきのニュースなんて忘れているでしょう。

でも、最近は何度も何度も同じニュースを見ます。同じ地球とは思えない、ニュースが飛び込んでいます。サイレンが鳴り響いている街の映像を、泣きながら自分の家の残骸にいる女性を、汚れてやせ細った傷だらけの子どもの姿を、どうしても忘れられません。

これが今の世界です。私が学校に行っている間も、ご飯を食べている間も、眠っている間も絶えず苦しんでいる人がいます。

彼らが笑顔になるためには、国家という対価を支払わなければならぬのでしょうか。

幸せになるためには、そんなに大きい対価は必要ありません。

ご飯が食べられる権利、学校に行ける権利、明日があると思える権利、そんなあたり前のことだが、少し海を越えるとすべて崩れていくのはおかしいのです。

平和になるためには何でしようか。

大統領を説得すればよいのでしょうか。あるいは国連総会に行つて「戦争をやめろ！」とでも言わなければならぬのでしょうか。

然るべき立場の人はそうするべきでしよう。しかし私には、そんな力はありません。だから、私達は私達の立場から平和を支援していくまませんか。

だけど、その「然るべき立場の人」を動かすためには民衆の声が必要です。

そのためには、何が起こっているのか、なぜこうなったのか、誰が苦しんでいるか、知る必要があります。

ニュースでも本でもネットでも、手段はいくつでもあります。私達にできる方法で平和を支援しましょう。どちらが正しいのか、という問題ではありません。正しいのはいつだって、世界が平和であることです。

世界を知ることは、平和につながります。何が起こっているのかを覚えておくだけでも、知らないよりはずつとずっと良いのです。誰にも知られず苦しんで、死にゆく人たちのことを知るだけでも、一步前に進め

ます。

私が「朝ご飯はパンが良かつた」などと言つてる中、明日のパンすら食べられない人がいます。

そのパンを全部取り上げろとは言いません。ただ、あなたが朝ごはんを食べている時、明日のパンすら食べられず、希望も持てない人がいることを知つてください。

知ることは意識することにつながり、意識することはじきに行動を起こします。その行動はきっといろいろな人を巻き込み、世界の平和と発展に多大な貢献をもたらします。

明日、夜が明けた時、ご飯を、あるいはパンを食べるとき、あなたがこの話を思い出してくれるだけで、救われるかもしれない命があることを思い出してください。